

## 極早生早期水稻種「宮崎30号」の窒素施肥法

結城利幸・藺田豊和・菊川憲明・\*梅木佳良 (宮崎県総合農業試験場・\*宮崎県総合農業試験場畑作園芸支場)

Toshiyuki YUKI, Toyokazu SONODA, Noriaki KIKUKAWA and Yoshinaga UMEKI : Response to Nitrogenous Fertilizer in Very Early Maturing Rice Cultivar "Miyazaki30"

宮崎30号は、コシヒカリより出穂期が7～10日程早い極早生の系統として宮崎総農試が育成したものである。このためコシヒカリに先立って確実に出荷できる品種として期待されている。この系統の安定栽培法を確立するための検討を進めているが、本報では、1991年にコシヒカリと対比して行ったN施肥法試験の結果について報告する。

## 1. 試験方法

1) 試験場所：宮崎県総合農業試験場水田

細粒灰色低地土 CL

2) 試験区の構成：

## ①宮崎30号

区 No	N量(kg/a)		穂肥施用時期 (出穂前日数)
	基肥	穂肥	
1	0	0	—
2	0.5	0.3	-15～-20(-14)
3	0.5	0.3	-20～-25(-18)
4	0.5	0.3	-25～-30(-24)
5	0.7	0.3	-15～-20(-15)
6	0.7	0.3	-20～-25(-19)
7	0.7	0.3	-25～-30(-26)
8	0.9	0.3	-15～-20(-15)

## ②コシヒカリ

区 No	N量(kg/a)		穂肥施用時期 (出穂前日数)
	基肥	穂肥	
9	0	0	—
10	0.5	0.3	-15～-20(-18)
11	0.7	0.3	-15～-20(-19)

注1) No10は対照 (慣行栽培)

注2) 穂肥施用時期の( ) は 実際の施肥日

3) 耕種概要：播種期 3月1日 播種量 150g/箱

移植期 3月25日

栽植密度 30cm×13.5cm (24.7株/㎡)

1株3本(手植)

移植苗 宮崎30号 苗長13.8cm 苗令3.2L

コシヒカリ 苗長15.8cm 苗令2.2L

※宮崎30号は出芽不良で健苗歩合が低下し

たため、苗令の進んだ苗になった。

## 2. 結果及び考察

1) 稈長はコシヒカリに比べ同じ基肥N量で15%程度短かかった。また、基肥N量0.7kg/a区では0.5kg/a区に比べ10%程長くなったが、倒伏はほとんどみられなかった。一方、穂肥の施用時期との関係は明らかでなかった。

2) 収量は穂肥の各施用時期とも基肥N量0.7kg/a区が0.5kg/a区より5%程度多かった。また、穂肥の施用時期が早いと㎡当たり籾数が増加し、増収する傾向がみられた。なお、コシヒカリに比べて、㎡当たり籾数は多いものの玄米千粒重と登熟歩合が低く、収量は同一基肥N量の場合で20%程度少なかった。

3) 品質は基肥N量及び穂肥の施用時期による違いは小さかったが、コシヒカリより1ランク程度低かった。

4) 食味や白米中のN含量と基肥N量・穂肥の施用時期との関係は明らかではなかった。また、コシヒカリに比べて白米中のN含量はやや高く、食味も概して劣った。

5) 宮崎30号の出穂時期は6月14日～16日で、コシヒカリに比べ11日程早かった。なお、出穂期が早いことから、不稔の発生がコシヒカリよりも多かった。従って、出穂期の早限を考慮した移植時期の設定が必要と考えられた。

以上のことから、宮崎30号のN施肥法としては、一般的な圃場(コシヒカリの場合に基肥N量0.5kg程度を目安とする水田)では、基肥N量は0.7kg/a、穂肥はN量0.3kg/aで施用時期は出穂前25日頃が適当と考えられた。

コシヒカリ並の収量を確保するため、今後、移植時期・栽植密度等についてさらに検討する必要がある。

第1表 生育、収量及び品質

区 No	品種・系統	区 分		出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	玄米 重 (kg/a)	同左 標準 比 (%)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	籾数 1穂 当たり (粒)	㎡当 たり (百粒)	登熟 歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)	病害・障害等			白米 N含量 (%)	食味 (総合評価)				
		N量(kg/a)	穂肥												検査	倒伏	穂い			不			
																					基肥	穂肥	時期
1	宮崎30号	0	0	—	6.15	7.13	22.8	48	56.5	14.6	249	51.3	128	88.0	20.3	△	△	ビ	1下	1.30	-0.063		
2		0.5	0.3	-14	6.14	7.15	37.5	79	66.1	16.1	378	60.0	227	81.4	20.3	△	△	ビ	中	1下	1.41	-0.036	
3		0.5	0.3	-18	6.14	7.14	38.3	81	65.7	16.4	432	56.5	244	78.5	20.0	△	△	ビ	中	1中	1.41	-0.250	
4		0.5	0.3	-24	6.14	7.15	40.0	84	69.2	16.2	417	62.6	261	78.2	19.6	△	△	ビ	中	1中	1.36	0.417	
5		0.7	0.3	-15	6.15	7.15	40.5	85	71.9	15.9	395	61.6	243	83.2	20.0	△	△	ビ	中	1下	1.44	-0.091	
6		0.7	0.3	-19	6.15	7.15	40.8	86	73.4	16.4	430	61.3	263	78.6	19.7	△	△	ビ	少	中	1下	1.42	-0.176
7		0.7	0.3	-26	6.16	7.16	42.6	90	75.2	16.7	445	68.5	305	72.4	19.3	△	△	ビ	少	中	1下	1.41	-0.235
8		0.9	0.3	-15	6.15	7.16	43.8	92	73.7	16.3	435	69.8	304	73.2	19.7	△	△	ビ	少	中	1下	1.47	-0.250
9	コシヒカリ	0	0	—	6.27	7.22	23.0	48	64.5	15.6	217	52.3	114	92.5	21.9	△	△	極	ビ	1下	1.26	0.333	
10		0.5	0.3	-18	6.25	7.23	47.5	100	78.8	16.8	380	60.3	229	94.3	22.0	△	△	極	ビ	1上	1.33	0	
11		0.7	0.3	-19	6.26	7.23	51.7	109	84.4	17.0	417	64.8	270	86.2	22.2	△	△	極	ビ	1中	1.32	-0.059	

注) No10は対照 (慣行栽培)